

「川口市障害者福祉計画・第7期川口市障害者自立支援福祉計画・
第3期川口市障害児福祉計画」策定のための意見交換会
実施結果（概要）

1. 実施目的

アンケート調査では把握できない障害者の声を把握し、現在策定中の計画の基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 実施概要

日時：令和5年8月2日（水）午後2時～4時10分（7名）

3. 意見交換テーマ

（1）現計画の重点施策「将来にわたる安心施策」について

①障害者と家族の高齢化への対応

- ・生活の場（住まいの場）の確保、短期入所施設の充実、家族負担の軽減、
障害者自身の高齢化への対応など

②障害者の地域生活支援

- ・相談体制の充実、地域移行支援の充実、社会参加の促進など

③障害者の雇用・就労支援

- ・一般就労の促進、障害者就労支援センターの充実など

④災害時の障害者への支援体制の整備

- ・地域で助け合える体制整備など

（2）障害者施策について

①川口市手話言語条例

②川口市障害のあるなしに関わらず共に学び成長する子ども条例

③医療的ケア児及びその家族に対する支援

④あいサポート運動

（3）貴団体に属する会員（障害者）の生活上の困り事など

4. 実施結果

(1) 現計画の重点施策「将来にわたる安心施策」について

①障害者と家族の高齢化への対応

(質問)

・短期入所施設の充実について、新たに施設をつくるのか、それとも、現在あるものについて運営方法や内容等を見直し、利用しやすくするのか。

→医療的ケアも可能な定員 19 名程度の新たな短期入所施設を整備する予定である。

・現状のしらゆりの家と同じということか。緊急時に誰でも利用できるというが、実際には利用しづらく困っている状況がある。

→しらゆりの家は定員 10 名で実際は (2 人部屋が 2 室あって) 8 室であったが、新たなものは 19 室となる。寝たきりの重度障害者が入れる広めの間口・部屋の設定と機械浴槽も設置ができる。利用のしやすさ・しにくさについては、市内にあるショートステイの事業所の空き状況を、相談支援専門員がリアルタイムで見られるシステムを現在構築中である。

・ロンググショートの方の利用はどう考えているか。

→ケースワークといった相談支援の手法で、長期滞在にならないよう進めている。市内にある理光、光福、はれの入所施設、県内にある他の入所施設にもお願いし、なるべくしらゆりの家がロンググショートの人で大勢にならないようにと考える。

(意見)

・聴力障害者、視覚障害者はコミュニケーションが難しく、孤立化しやすい。

・難病の理解がなく、就労、施設利用、兄弟姉妹でも結婚が難しい。

・視覚障害者の知人は火を扱うこのも怖いのではないかと理由で、アパート等の入居拒否をされている。実際には工夫しながら生活をしているので皆に理解してもらいたい。

②障害者の地域生活支援

・聴力障害者は、病院に行ってもマスクでの会話が難しく、筆談も嫌がれることがある。手話通訳者の派遣を利用しているが、事前申請が必要で、必要な時にすぐに行くことも難しい。医療が一番のテーマである。

・視覚障害者は道路の段差で、結構つまづくことがあるので、なくしてもらいたい。

・点字ブロックについて、視覚障害者がホームから落ちないように、線路側のブロックを工夫してほしい。

・相談体制は充実していると思うが、総合的な相談体制として、内容によって振り分けるほうが、今の若いお母さんたちは相談しやすいのかもしれない。自分で初めからここに相談したいというのは意外に分からない。

・地域移行は、入所していた方の受け皿が必要。

・視覚障害者に同行援護は重要。

・民生委員が地域の障害者を把握できない。地域での見守りには障害者の名簿が必要ではないか。

・障害福祉課での職員の対応が良くないことがあったと聞いた。障害者の窓口対応について配慮いただきたい。

③障害者の雇用・就労支援

- ・障害者が1人、2人という職場では、本人がどういうところで困っているか周りに言えない、また、周りも1人だけの意見を聞くわけにはいかないという雰囲気がある。
- ・障害者がいる会社には、障害者が入ってきやすい。障害者は障害者に相談に来ることが多いので、市内企業のどこで障害者が働いているのか、市役所は把握したほうが良いのではないか。
- ・難病は、就労は能力的に可能だが、一般の方と同じ条件だと難しく、時間的な制限や内容、病気に配慮した働き方であれば可能である。
- ・知的障害者で一般就労をされている方もいるが、就労時は理解があり、1年目は周りも親切だが、年数を重ねると周りの目も厳しくなり、障害に対する理解のない上司に代わると居心地が悪くなってリタイヤしてしまうケースを結構見てきた。
- ・一旦就職したが、何らかの理由でリタイヤした場合に、訓練や心のケアができる場所があれば、再トライすることが可能になるのではないか。
- ・障害者の雇用・就労は地域の理解が課題である。現場で障害者を本当に雇おうという人はいるのか。就労の受け皿が必要。
- ・視覚障害者の就労で多いのは「あはき（あん摩、はり、きゅう）」で、この資格を取って働いている方が多い。現在多いのは訪問マッサージで患者宅やデイサービス等の施設にいつている。要望として、色々な企業の職場の中でマッサージができるような場所を確保できるような声掛けをしてほしい。
- ・視覚障害者でIT関係の企業に就職される方が増えている。職能センターに通い、音声パソコンスキルを習得し、就職した。自分の困る事に理解を求め、できることを話し合ってもらい、充実した仕事ができる。

④災害時の障害者への支援体制の整備

- ・最近、災害が多いので何とかしなければいけないと思うが、非会員もおり、全障害者について把握しきれない。聞こえない人がどこにいるかも知らないし、聞こえない者同士による安否確認の体制も整っていない。
- ・テレビやラジオが聞こえず、情報が入ってこないのが不安。周りの人が気づいてくれて支援してくれると有難い。聞こえない人が一緒に集まれるような避難所もほしい。
- ・町会との関わり、隣近所の人と仲良くしていくことが大事。
- ・障害者は必要な荷物があるので、車で避難できるようにしてほしい。
- ・避難所に行くまでが難しい。
- ・難病の方は、避難生活が長くなると薬が切れることもある。薬の把握、お薬手帳、自分がこういうことをしてほしいというメモを持っていくことがよいと考えている。
- ・防災本について、視覚障害者が自分の地域の状況を前もって知るためにCDの配布をしてほしい。
- ・災害のリアルタイムの情報を見たり聞いたりできる方法を教えてほしい。
- ・避難行動要支援者登録の名簿を見ると、障害に対し、配慮すべきことを書く欄があるともっと充実されると思う。

(2) 障害者施策について

①川口市手話言語条例

- ・手話の出前講座を行っているので利用してほしい。
- ・手話を川口市民に知ってもらい、優しいまちになってほしい。

②川口市障害のあるなしに関わらず共に学び成長する子ども条例

- ・視覚障害者に対する理解は、頭の中で分かっているけど、実践してみないと分からない。例えば白杖で歩いている人や、盲導犬と一緒に歩いている人を見掛けたときに、どのように接したらいいのかを、子どもたちに理解してもらいたい。

③医療的ケア児及びその家族に対する支援

- ・市内には専門的な医療機関がなく、市外に行っている状況である。医療病院（東京北医療センターのようなもの）までは要望しないが、現在ある医療センターに医療的ケアができる（医療と療育を担う）部署があると、いいのではないかな。

④あいサポート運動

- ・取り組んでいるようだが、市民のほとんどは知らないのもっと周知が必要である。
- ・学校関係からあいサポート運動を広げることは、大人より手っ取り早いし、理解してもらいやすい。

(3) 貴団体に属する会員（障害者）の生活上の困り事など
発言なし

以上